

専門分野Ⅱ（臨地実習成人看護学）

1. ねらい

医療政策によって実習病院の平均在院日数は短縮化傾向にある。また、成人の特徴として成人期の役割を担うために、外来で治療しながら社会生活を送っている場合が多くなっている。そのため、入院中の患者は健康の危機的状況（急性期あるいは終末期）であることが多い。

これらのことから成人看護学の臨地実習は、入院中の危機的状況や苦痛の緩和への対応および成人の健康を脅かしている生活習慣病やがん、機能障害などのかかえて生活する人への保健指導や患者教育について講義で学んだ知識・技術を使って看護活動が実践できることをめざす。

そのためには、対象の健康上の課題と疾病の経過の各期、そして患者とその家族の状況がしっかりと捉えられ援助できることが必要である。

以上のことをふまえて、成人看護学実習はⅠ～Ⅲ期のまとまりに分けて進めていく。

成人看護学実習Ⅰでは、成人期にある患者を受け持ち、看護過程を使って看護を展開できる能力を身につけることを中心に学習する。

成人看護学実習Ⅱでは、急性期・回復期にある患者と家族への援助を通して、対象の健康問題や疾患の経過に応じた看護実践をする。その中で、病態・症状・治療・処置・検査が対象におよぼす影響についてアセスメントし、さらに看護判断をしていく実践力とその看護を学ぶことをめざす。

そして、危機的状況を脱し回復するために必要な看護や患者教育についてアセスメントし看護実践することをめざす。また、対象への看護を通して保健・医療・福祉チームの中での看護の役割を理解する。

成人看護学実習Ⅲでは、慢性期・終末期にある患者と家族への援助をとおして、対象の健康問題にそくしたセルフケアの再構築やセルフケアマネジメントに向けての看護実践を行う。また、緩和ケアが必要な対象への看護を実践する。その中で病態・障害・症状・治療処置が対象に及ぼす影響についてアセスメントし、対象に必要な保健指導や患者教育を実践することをめざす。

また、対象への看護を通して看護技術の実践力を高めると共に保健・医療・福祉チームの中での看護の役割を理解する。

成人看護学実習Ⅱ・Ⅲでは、対象の疾患の経過の各期の変動や病態の変化に応じた看護を柔軟に学ぶ。

2. 目的

成人期にある患者とその家族を理解し、健康問題・疾患の経過の各期に応じた看護の実践ができる。

3. 目標

成人看護学実習Ⅰ

1) 成人期にある対象の特徴を理解し、健康問題・健康・疾病の経過の各期に応じた看護過程の展開が

成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ

1) 成人期にある対象を身体的・心理的・社会的特徴から理解できる。

2) 対象の健康問題や健康病態などが対象におよぼしている影響についてアセスメントができ、看護判断に基づいた看護実践ができる。

3) 対象をとりまく家族への援助ができる。

4) 保健・医療・福祉チームの中での看護の役割がわかる。

5) 対象に対する援助の理論的根拠を明らかにし、考察を深める。

専門分野Ⅱ(臨地実習成人看護学)

教育内容	授業科目	単位数	内容	履修年次・単位数			履修方法	授業形態	評価	備考
				1年	2年	3年				
成人看護学実習	成人看護学実習Ⅰ	2 (90h)	<p>〈ねらい〉</p> <p>成人期にある対象の健康問題・疾患の経過の各期に応じた看護について理解するために、看護過程を使って看護の展開を行う。また看護過程の展開ができる能力を身につける。</p> <p>〈内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者把握 2. 看護計画立案 3. 患者の日々、状況に応じた看護の実施 		○		必修		実施内容 患者記録 態度	
	成人看護学実習Ⅱ	2 (90h)	<p>〈ねらい〉</p> <p>患者と家族への援助を通して、急性期・回復期にある対象の健康問題や健康レベルに応じた看護実践ができることをめざす。そのため病態・症状・治療・処置・検査が対象におよぼす影響についてアセスメントし、さらに看護判断をしていく実践力を学ぶ。また、危機的状況を脱し回復するために必要な看護や患者教育を実践する。</p> <p>そして、対象への看護を通して保健医療福祉チームの中での看護の役割を理解する。</p> <p>〈内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある患者と家族の理解と把握 2. 健康問題・疾患の経過の各期に応じた看護の実施 3. 健康問題・疾患の経過の各期に応じた対象への患者教育の実施 4. レポートによる看護実践の考察 		○		必修		実施内容 患者記録 態度 レポート	
	成人看護学実習Ⅲ	2 (90h)	<p>〈ねらい〉</p> <p>患者と家族への援助を通して、慢性期・終末期にある対象の健康問題や疾患の経過の各期に応じた看護実践ができることをめざす。そのため、セルフケアの再構築やセルフケアマネジメントに向けての看護と緩和ケアが必要な対象への看護を実践する。その中で病態・障害・症状・治療処置が対象に及ぼす影響についてアセスメントし、対象に必要な保健指導や患者教育</p> <p>また、対象への看護を通して保健医療福祉システムとその中での看護の役割を理解する。</p> <p>また、対象への看護を通して保健医療福祉チームの中での看護の役割を理解する。</p> <p>〈内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある患者と家族の理解と把握 2. 健康問題・疾患の経過の各期に応じた看護の実施 3. 健康問題・疾患の経過の各期に応じた対象への患者教育 4. 健康診断における指導を見学し成人期の健康教育・保健指導について学ぶ。 5. 保健医療福祉チームの中での看護の役割を理解する 6. レポートによる看護実践の考察 			○	必修		実施内容 患者記録 態度 レポート	

専門分野Ⅱ(臨地実習老年看護学)

1. ねらい

臨地実習では、老年者への温かな理解に基づき、講義で学んだ知識・技術を使って健康障害のある対象とその家族に対し、看護活動が実践できることをめざす。

それには対象の健康レベルや、対象とその家族の状況を把握でき、援助できることが必要である。また援助を通して、保健・医療・福祉の連携および活動の実際を学習し、老年看護の役割を理解できるようにする。

2. 目的

健康障害を持つ老年期にある対象を総合的に理解し、対象およびその家族に健康障害の状態や特性に応じた看護が実践できる能力を養う。

3. 目標

- 1) ライフサイクルの中での老年期をとらえ、老年期にある対象である高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を総合的に理解できる。
- 2) 対象の健康レベルや障害の状態をアセスメントでき看護判断に基づいた看護実践ができる。
- 3) 対象をとりまく家族への援助ができる。
- 4) 保健・医療・福祉チームの実際と老年看護の役割を理解する。
- 5) 対象に対する援助の理論的根拠を明らかにし、考察を深める。

専門分野Ⅱ(臨地実習老年看護学)

教育内容	授業科目	単位数	内容	履修年次・単位数			履修方法	授業形態	評価	備考
				1年	2年	3年				
老年看護学実習	老年看護学実習Ⅰ	2 (90h)	<p>〈ねらい〉 健康障害を持つ老年期にある対象を総合的に理解し、対象およびその家族に対し、看護過程を使った看護が展開できる能力を身につける。</p> <p>〈内容〉 1. 情報収集(病像, 生活像, 社会像) 2. 患者像(全体像) 3. 看護計画立案 4. 実施・評価</p>		○		必修		患者記録 実施内容 態度	
	老年看護学実習Ⅱ	2 (90h)	<p>〈ねらい〉 健康障害を持つ老年期にある対象を総合的に理解し、健康障害のある対象とその家族に対し尊厳を持ち、健康レベルや特性に応じた看護ができる。</p> <p>〈内容〉 1. 健康障害を持つ老年期にある対象とその家族を理解し、看護過程を使い、対象に応じた看護の展開 2. 生活機能の低下のある高齢者の理解(施設) 3. 廃用性症候群のある対象とその家族への援助 4. 認知症のある対象とその家族への援助 5. 寝たきり状態にある対象とその家族への援助 6. 継続看護 7. レポートによる看護実践の考察</p>			○	必修		患者記録 実施内容 態度 レポート	

専門分野Ⅱ(臨地実習小児看護学)

1. ねらい

小児看護の対象は児と家族である。病棟実習では健康障害のある小児と家族の看護を学ぶ。

まず、小児の特徴が理解でき、病気や入院が児と家族にどのように影響しているのか、根拠に基づき看護を計画的に実践できる能力を身につける。

小児の健康回復を促す看護として、児の個性を大切に成長発達段階にあった看護技術が習得でき、児と家族への援助を学ぶ。

さらに小児看護の対象を広げ、障害児施設での実習を行う。ねらいとして障害児の特徴が理解でき、施設での看護の特徴、対象に関わる、各職種について理解する。

子どもとの関わりでは、子どもの権利を尊重することを大切に成長発達を促すための援助、日常生活自立に向けての援助を学ぶ。

2. 目的

小児期にある対象とその家族を理解し、小児の成長発達段階・健康レベルに応じた看護が実践できる能力を養う。

3. 目標

- 1) 小児各期の特徴を理解し、小児の成長発達に応じた援助ができる。
- 2) 小児の日常生活行動自立に向けての生活援助が理解できる。
- 3) 小児と家族の看護問題を明確にし、解決に向けての援助が理解できる。
- 4) 小児各期の対象に応じた看護技術が習得できる。
- 5) 病気や入院が小児と家族に及ぼす影響が理解でき、その援助が理解できる。
- 6) 小児看護に対する関心が高まり、子ども観が深まる。
- 7) 小児に関わる多職種について学び、看護の役割が理解できる。
- 8) 対象に対する援助の理論的根拠を明らかにし、考察を深める。

専門分野Ⅱ(臨地実習小児看護学)

教育内容	授業科目	単位数	内容	履修年次・単位数			履修方法	授業形態	評価	備考
				1年	2年	3年				
小児看護学実習	小児看護学実習	2 (90h)	<p>〈ねらい〉</p> <p>講義で学んだ知識をもとに児の成長発達が理解でき小児の権利を尊重できる関わりを通して成長発達を促すための援助をする。</p> <p>また小児看護の対象は児とその家族であることを踏まえあらゆる健康レベルに応じた看護を実践する。</p> <p>〈内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち児の成長発達段階の理解とそれに応じた看護 2. 小児と家族の間における看護問題の明確化と解決に向けて看護 3. 病気や入院が小児と家族に及ぼす影響を学び、援助を理解する。 4. 対象に応じた看護技術の習得 5. 小児の安全管理の責任が理解できる 6. 子ども観が深まる 7. レポートによる看護実践の考察 		○		必修		患者記録 実施内容 態度 小筆記試験	
	小児看護学実習		<p>〈障害児施設の実習 ねらい〉</p> <p>医学の進歩と共に障害のレベルは重度になりつつある。障害児の看護として、児の機能を十分に育て、できる範囲で自立した生活行動ができるよう支援する技術を理解する。また児に関わる他職種について理解する。</p> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児の生活を把握し、援助の実際 2. 生じやすい健康問題が理解でき、健康レベルが低下しない援助の理解 3. 障害のある小児と家族の社会的支援についての理解 4. 他職種について理解する 5. 心身障害児への看護の役割についてまとめる 		○		必修	実習記録 態度 レポート		

専門分野Ⅱ(臨地実習母性看護学)

1. ねらい

現代は女性の生き方や結婚・妊娠・分娩・育児への価値観が多様化している。

母性看護の対象は、ライフサイクルにおけるすべての女性と新しい生命を迎える人々が対象である。

母性看護学実習では周産期にある、妊婦・産婦・褥婦の生理的、精神的、社会的特徴を理解する。生理的特徴であり健康障害ではないことを理解する。従って、対象が自ら健康管理できるよう援助していくことが必要である。

精神的、社会的特徴として、妊娠から産褥期の母子関係は、特に人間関係を形成する最も根源となり、大切な時期である。

実習では妊婦・産婦・褥婦・新生児の正常な経過への援助を中心に学ぶ。

また、母子及び家族に必要な保健指導ができる基礎的能力を身につける。

異常経過をたどった時は、回復へ向けての援助、または見学実習で理解を深める。

また、対象への看護を通して保健・医療・福祉チームの中での看護の役割を理解する。

2. 目的

周産期の女性の変化が理解でき、妊娠・分娩・産褥各期の母性ならびに新生児・家族の看護が実践できる能力を養う。

3. 目標

- 1) 妊・産・褥婦の生理的、精神的、社会的特徴が理解できる。
- 2) 新生児の生理的特徴が理解できる。
- 3) 妊・産・褥婦及び新生児への必要な看護を理解し、母子共に援助ができる。
- 4) 母子および家族に必要な保健指導ができる
- 5) 保健医療福祉チームの中での看護の役割が理解できる。
- 6) 対象に対する援助の理論的根拠を明らかにし、考察を深める。

専門分野Ⅱ(臨地実習母性看護学)

教育内容	授業科目	単位数	内容	履修年次・単位数			履修方法	授業形態	評価	備考																
				1年	2年	3年																				
母性看護学実習	母性看護学実習	2 (90h)	<p>(ねらい)</p> <p>妊娠・分娩・産褥の各期の正常な経過と新生児の生理的变化を知り、異常なく生活ができるように援助する。</p> <p>対象は、病気でない事を理解し、対象自らが健康管理でき、母子関係も重視しながら健康増進にむけて援助する大切さを学ぶ。</p> <p>正常経過の看護実践が中心となるが、異常経過をたどった場合は、回復にむけての援助、または見学実習などで理解を深める。</p> <p>又外来での母子の継続看護、保健活動を知り、看護の視野を広げ、個別性をとらえた援助の重要性を学ぶ。</p> <p>(内容)</p> <p>1. 妊婦の看護</p> <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px;"></td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black;">外来での看護</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black;">病棟での看護</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black;"></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black;">異常妊婦</td> </tr> </table> <p>2. 産婦の看護</p> <p style="margin-left: 20px;">分娩第Ⅰ期の産婦の看護</p> <p style="margin-left: 40px;">Ⅱ期の産婦の看護</p> <p style="margin-left: 40px;">Ⅲ～Ⅳ期の産婦の看護</p> <p style="margin-left: 20px;">異常分娩の看護について</p> <p>3. 褥婦の看護</p> <p style="margin-left: 20px;">保健指導</p> <p>4. 新生児の看護</p> <p style="margin-left: 20px;">直後～1週間の看護</p> <p>5. レポートによる看護実践の考察</p>								外来での看護				病棟での看護				異常妊婦			○		必修	患者記録 実施内容 態度 レポート 小筆記試験	
			外来での看護																							
			病棟での看護																							
			異常妊婦																							

母性看護学実習

専門分野Ⅱ(臨地実習精神看護学)

1. ねらい

精神科病棟において、精神疾患を持つ患者とのかかわりを通して対象への理解を深め、教室で学んだ精神看護の理論、概念、コミュニケーション技術を受け持ち患者に効果的に提供することを体験する。さらに、患者とのかかわりの中で自分自身に向きあい、自己を見つめ、治療的に自己を活用することが精神看護の技術であることを理解する。

また、精神疾患の治療とその影響、実際の病棟環境から精神科病棟の特徴を知り、望ましい治療環境について理解を深める。さらに、精神疾患をもつ患者に対する差別・偏見等患者をとりまく様々な問題について考え、精神障害者の社会復帰への支援について学ぶ。

これらの学びから精神看護を理解する。

対象の看護を通して保健医療福祉チームの看護の役割を理解する。

2. 目的

精神の健康上の問題を抱える人とかかわりを通して対象と自己への理解を深め、精神疾患をもつ人をとりまく環境と問題を知り、看護の役割を理解する。

3. 目標

- 1) 患者とかかわりを通して、精神疾患をもつ人を理解する。
- 2) 看護場面の再構成を通して自己理解を深め、看護における自己活用について理解する。
- 3) 精神疾患の治療とその影響、看護の実際を理解する。
- 4) 精神科病棟の特徴を知り、望ましい治療環境について理解する。
- 5) 精神疾患をもつ人をとりまく環境と問題を知り、社会資源の活用と社会復帰への支援について理解する。
- 6) 実習での学びを通して精神看護に対する自己の考えを明らかにしレポートが書ける。
- 7) 保健医療福祉チームの中での看護の役割が理解できる。
- 8) 対象に対する援助の理論的根拠を明らかにし、考察を深める。

専門分野Ⅱ(臨地実習精神看護学)

教育内容	授業科目	単位数	内容	履修年次・単位数			履修方法	授業形態	評価	備考
				1年	2年	3年				
精神看護学実習	精神看護学実習	2 (90h)	<p><ねらい> 精神科病棟において、精神疾患を持つ患者とのかかわりを通して対象への理解を深め、教室で学んだ精神看護の理論、概念、コミュニケーション技術を受け持ち患者に効果的に提供することを体験する。さらに、患者とのかかわりの中で自分自身に向きあい、自己を見つめ、治療的に自己を活用することが精神科看護の技術であることを理解する。</p> <p>また、精神疾患の治療とその影響、精神科病棟の特徴を知り、望ましい治療環境について理解を深める。さらに、精神疾患を持つ患者に対する差別・偏見等患者をとりまく様々な問題について考え、精神障害者の社会復帰への支援について学ぶ。これらの学びから精神科における看護の役割を理解する。</p>			○	必修		患者記録 実習内容 レポート 態度 小筆記試験	
			<p><内容> 1. 受け持ち患者の全体像の把握 2. 患者の援助の方向性をとらえる 3. 患者の健康的な側面に着目しての看護計画の作成 4. 実施及び評価 5. プロセスレコードの検討を通じた自己と患者との関係の理解 6. 病棟の特殊性の理解と望ましい治療環境の考察 7. 病棟内外の行事、レクリエーション療法、活動療法の見学及び企画・参加 8. レポートを通して精神科看護に対する自己の考えの明確化 9. レポートによる看護実践の考察 10. 社会復帰への支援と保健医療チームでの看護の役割を理解する</p>							

統合分野(臨地実習在宅看護論)

1. ねらい

臨地実習では、講義で学んだ知識・技術を使って、対象やその家族が生活している場で、必要な援助が実践できることを目指す。

この時、大切にしたいことは、家族が生計をたてながら生き、家族なりの生活の仕方、対象へのケアをしていることを受け入れる寛容性を育てることである。

そして、その対象や家族の生活にあった援助方法を指導できることが必要である。援助を通して、保健・医療・福祉の連携と協働の実際を学習し、看護の役割について理解できるようにする。

2. 目的

在宅における対象を理解し、看護の実際及び継続看護の必要性や社会資源の活用の重要性を学ぶと共に、在宅看護を実践できる能力を養う。

3. 目標

- 1) 疾病や障害をもちながら生活の場で療養する対象とその家族を理解する。
- 2) 在宅における看護課題の解決へのプロセスを学ぶ。
- 3) 基本的な看護技術を応用し、対象にあった援助の実際を学ぶ。
- 4) 継続看護の重要性と保健・医療・福祉の連携と協働及び看護師の役割を理解する。
- 5) 対象に対する援助の理論的根拠を明らかにし、考察を深める。

統合分野(臨地実習在宅看護論)

教育内容	授業科目	単位数	内容	履修年次・単位数			履修方法	授業形態	評価	備考
				1年	2年	3年				
在宅看護論実習	在宅看護論実習	2 (90h)	<p>〈ねらい〉</p> <p>疾病・障害をもちながら多様な生活の場で療養する対象と家族に対し、状況に応じた看護の実践ができる。</p> <p>〈内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象および家族の理解 2. 援助計画 3. 実施・評価 4. 保健医療福祉チームの中での看護の役割を理解する 5. レポートによる看護実践の考察 			○	必修		患者記録 実施内容 態度 レポート	

統合分野(臨地実習看護の統合と実践)

1. ねらい

基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ・Ⅱでの学習を踏まえ、実務に即した実習を設定し、臨床への橋わたしになるように看護専門職としての役割を果たすべく看護実践力を養う。

つまりチーム医療及び多職種との連携・協働、看護師としてのリーダーシップ・メンバーシップを学び、看護を

2. 目的

基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ・Ⅱでの学習を統合し、多様な場や状況に応じた看護を実践できる基礎的知識・技術・態度を習得するとともに、看護専門職としての役割を果たすべく看護が実践できる能力を養う。

3. 目標

- 1) 看護実践に求められるマネジメントを学び、実務に即した臨床看護実践の基礎的能力を養う
 - ①医療チームの構造と情報伝達について理解する。
 - ②看護業務におけるチームワークとリーダーシップについて理解する。(1勤務帯、夜間)
 - ③多職種のチームワークとコミュニケーションを理解する。
 - ④業務遂行のためのマネジメントを理解する。(複数患者受け持ち・多重課題)
 - ⑤看護に必要な物品・整備の管理について理解する。
- 2) 医療安全の実践と今後の課題の明確化
- 3) 3年間を総括した看護技術の評価と今後の課題の明確化

統合分野(臨地実習看護の統合と実践)

教育内容	授業科目	単位数	内容	履修年次・単位数			履修方法	授業形態	評価	備考
				1年	2年	3年				
看護の統合と実践	統合実習	2 (90h)	<p>〈ねらい〉</p> <p>3年間で、学んだ看護の知識技術態度の統合した看護の実践とチーム医療及び他職種との協働、看護師としてのリーダーシップ・メンバーシップを学び、看護をマネジメントするための必要な基礎的能力を習得する。</p> <p>また看護実践者としての今後の課題を明らかにする</p> <p>〈内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の実際 2. 複数患者の援助の優先順位の考え方と時間の管理の必要性の理解 3. 看護チームのチームメンバーおよびチームリーダーの役割の理解 4. 夜間実習の体験を通し、対象者の理解 5. 一勤務帯を通しての看護体験 6. 受け持ち患者の看護計画の全体を把握したうえで、複数の看護問題(多重課題)の解決 7. 医療安全の実践と今後の課題の明確化 8. 技術の評価と今後の課題の明確化 			○			患者記録 実施内容 態度 レポート	